第３期
大田市スポーツ
推進計画

（計画期間　令和9年度～令和 13 年度）

大田市教育委員会

《 目 次 》

第1章　第3期大田市スポーツ推進計画策定にあたって
　1 計画策定の趣旨
　2 計画の位置づけ
　3 計画期間
　4 進捗管理
　5 本市の現状と課題

第2章　計画の構成
　1 計画の目指す姿
　2 計画の基本的な考え方
　3 基本方針と施策
　　(1)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
　　(2)夢と感動をもたらすスポーツ活動の推進
　　(3)子どものスポーツ活動の推進
　　(4)スポーツ推進体制の強化
　　(5)スポーツに親しむ環境の整備・充実

第3章　計画の推進及び進行管理
　1 計画の推進
　2 進行管理

資料編

第1章　　第3期大田市スポーツ推進計画の策定にあたって

1　計画策定の趣旨

2011 年（平成 23 年）に施行されたスポーツ基本法では、スポーツは世界共通の人類の文化であり、すべての人が生涯にわたりスポーツに親しみ、楽しむことができる環境づくりを推進することが求められています。

大田市では、「第２期大田市スポーツ推進計画（後期計画）〔令和４年度～令和８年度〕」に基づき、市民がスポーツに親しむ機会の確保やスポーツ環境の整備に取り組んできました。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症の影響によるスポーツ活動の停滞や、少子高齢化の進行による競技人口の減少、指導者不足、さらには学校部活動の地域展開など、スポーツを取り巻く環境は大きく変化しています。

また、本市は世界遺産である石見銀山遺跡とその文化的景観を有し、ユネスコの精神に基づき「一人ひとりの人権が尊重される心豊かな共生社会」の実現を目指しています。本計画においても、この人権尊重の視点を基盤とし、誰もがスポーツに親しみ、参加できる環境づくりを進めていきます。

さらに、2030（令和 12）年には、島根県において国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会（以下、「島根かみあり国スポ・全スポ」という。）が開催され、大田市を会場として弓道、空手道、銃剣道の3種目が実施されます。島根かみあり国スポ・全スポの開催を契機に、市民のスポーツへの関心が高まる取り組みやスポーツを楽しむ環境の整備を進めていきます。

こうした状況を踏まえ、これまでの取組を検証するとともに、市民が生涯にわたりスポーツに親しむことができる環境づくりをすすめるため「第 3 期大田市スポーツ推進計画」を策定するものです。

2　計画の位置づけ

スポーツ基本法第 10 条に基づく地方スポーツ推進計画として位置づけます。

国の「第3期スポーツ基本計画」、県の「第3期島根県スポーツ推進計画」を参酌し、本市の実情に即したスポーツに関する施策について基本的な方針や効果的・効率的に推進するための施策を示す計画とします。

また、「大田市総合計画」、「大田市教育ビジョン」、「大田市まち・ひと・しごと創生総合戦略」、「第2期おおだ健やかプラン」など、関係諸計画と整合性を図り、一体的に推進します。

3　計画期間

計画の期間は、2027（令和9）年度～2031（令和 13）年度の5年間とします。

4　進捗管理

本計画を着実に推進するため、大田市スポーツ推進審議会にて取り組み状況を把握し事業を検証するなど進捗管理を行います。

また、社会情勢の変化に対応するなど、必要に応じて計画の見直しを行います。

5　本市の現状と課題

　第2期大田市スポーツ推進計画では、スポーツライフの実現による元気で活力のあるまち「おおだ」を目指す姿として、5つの基本方針を定め、事業を実施しました。
　第3期大田市スポーツ推進計画を作成するにあたり、第2期計画に掲げた施策に対する評価・検証を、以下のとおり実施しました。

評価	評価の基準
A	完全達成
B	概ね達成・継続
C	改善を要する
D	再構築が必要

1　ライフステージに応じたスポーツ活動の推進
(1)働き盛り世代のスポーツ活動への参加機会の充実

前期計画の現状と課題
●「おおだ健やかプラン」策定に関するアンケート（平成 30 年度）によると、日頃から意識して運動している人の割合は 3 割程度で、子育て世代や働き盛り世代は、運動不足を感じつつも「忙しく時間がない」「運動する機会がない」等の理由で運動実施率が低い実態があります。 ●健康づくりの面から、運動・スポーツに親しむよう意識啓発を進めるとともに、若い頃から気軽に運動・スポーツに取り組める環境づくりを進めていく必要があります。

評価	検証
B	昨年度実施した市民アンケートでは定期的に運動を行っている割合は約 45%となり、平成 30 年度に行ったアンケートから上昇している。ただし、半数を下回っている現状であり、引き続き取り組むべき課題である。 　新型コロナの影響により現地開催ができない期間はあったが、令和6年度から三瓶高原クロスカントリー大会の現地開催を再開した。このほか、スポレク広場の開催や体力チェックなど気軽に参加できる機会を提供した。 　また、大田総合体育館では様々な教室メニューを提供しており、多様なニーズに応える取組を行った。

(2)運動・スポーツを通じた介護予防活動の推進

前期計画の現状と課題
●令和 3 年 11 月 1 日現在、本市の人口は 33,331 人、65 歳以上の高齢者人口は 13,495 人、高齢化率は 40.49%であり、高齢化が進行しています。高齢者が元気に過ごし要介護状態とならないためにも、生活習慣の改善や運動の生活化への取組が必要です。 ●高齢者向けのスポーツ活動推進のため、高齢者のニーズに対応したスポーツ活動が身近な地域で行えるよう、関係機関と連携する必要があります。 ●現在、スポーツ施策の中では介護予防につながる直接的な取組は行っておらず、健康福祉部局や地域が単独で行っている状況です。高齢化が進行する現状から鑑み、関係部局や地域と連携し、健康寿命を延伸させるための取組が求められます。

評価	検証
B	各地域の高齢者通いの場において、0854-8 体操を継続して実施しており、年間で延 18,000 人程度の方が参加している。また、大田総合体育館では軽負荷のトレーニングマシンがあり、高齢者の体力向上、体力維持に寄与している。 また、地区運動場や地区体育館等を利用して、グラウンドゴルフをはじめとする軽スポーツを定期的に行っている。各種情報の周知や気軽に楽しめる運動メニューの充実を図ることが必要である。

(3)障がいのある人のスポーツ活動の推進

前期計画の現状と課題
●障がい者スポーツの普及や競技力の向上に向けた取組等においては、施設のバリアフリー化、指導者不足等の課題があります。 ●障がいのある人もない人もそれぞれの立場でスポーツ活動を行っているのが現状であり、一緒にスポーツに親しむ機会はほとんどない状況です。障がい者関係部局や大田市社会福祉協議会、障がい者関係団体と連携し、より多くの人が障がいのあるなしに関わらず一緒になってスポーツ活動を行えるよう、環境整備が必要です。 ●障がいのある人のスポーツについて、県等の広域圏で開催される競技会やスポーツイベントの周知を図るとともに、スポーツに気軽に参加できる環境づくり等の支援が必要です。

評価	検証
B	障がいのある人がスポーツ活動を行うための指導者については、引き続き課題として残っているほか、スポーツ活動を推進するうえで必要となる関係団体との連携も不足している。また、一部のスポーツ施設においてスロープの設置などが行われていない施設がある。 大田市でもスペシャルオリンピクスの活動が行われており、サッカーやバレーボールにおいて、アスリートへの指導が認定コーチを含むボランティアにより実施されている。

2 夢と感動をもたらすスポーツ活動の推進

(1)競技スポーツの推進

前期計画の現状と課題
●競技力を向上させ、継続的な活動へ発展させるためには、現指導者のスキルアップが必要です。また、現指導者は高齢化や限られた人材のみが指導している傾向があるため、新たな指導者の育成・確保が必要です。 ●一流に触れる機会を市民に提供し、スポーツへの意識の高揚を図る必要があります。 ●スポーツ選手のレベルアップを図るため、強化競技の選定・方法等についてスポーツ関係団体と連携し、本市をあげて支援する必要があります。

評価	検証
B	島根県スポーツ協会、大田市スポーツ協会や競技団体の取り組みとしてトップアスリートを招いた交流イベントを開催した。また、連携協定を結んでいる日本体育大学から講師を招聘し、指導者に対する研修会を実施している。 様々な種目で全国大会に出場しており、大田市として激励金を贈呈している。小中学生が利用する場合には地区体育施設、学校体育施設の利用料が無料であることで、利用しやすい状況となっている。

(2)観るスポーツの推進とトップアスリートとの交流

前期計画の現状と課題
●間近で一流スポーツに触れる機会が少ない市民に対し、「観る」ことも含めて機会を提供し、スポーツへの意識の高揚を図る必要があります。

評価	検証
B	県央に位置しており、各種大会を開催するうえで、地理的には優位な面があるが、多くのスポーツ施設が老朽化していることもあり、大会誘致に至っていない。三瓶青少年交流の家など、合宿に適した施設もあるため、これらの施設の利用を含めた大会誘致に取り組む必要がある。 大田市のホームページのほか、大田市スポーツ協会でもスポーツに関わる情報をホームページに掲載するなど、情報発信に関する取組を行っている。今後はより訴求力を高めるためにSNSなどを活用し、多角的な情報発信が必要である。

3 子どものスポーツ活動の推進

(1)幼児からの運動・遊びの推進

前期計画の現状と課題
●幼稚園、保育園において、運動や遊びは行われていますが、それぞれの園で個別に行われています。 ●まずは、スポーツは楽しいものだと感じてもらうことが重要です。そのうえで就学前に到達しておきたい運動レベルの目標を定め、個々を尊重しながら幼児教育施設が共通認識を持って幼児期の体力向上に取り組む必要があります。

評価	検証
B	毎年、小中学校で実施しているスポーツテストの分析を子どもの体力向上推進連絡協議会(大田市小・中スポーツテスト活用会議)で行っており、実態把握に努めるとともに、分析結果を各学校へ通知するほか、ホームページにも掲載している。 一方で、分析した結果から見えた課題(二極化、運動をしない子の基礎運動能力の低下)への取組や学齢期前の子どもに対する取組が不十分である。 なお、大田総合体育館では、幼児を対象としたキッズあそび塾を開催しており、遊びを通した体づくりに取り組んでいる。

(2)子どもの体力向上の推進

前期計画の現状と課題
●小中学校「新体力テスト」の結果によると、本市においては近年体力低下に歯止めがかかった状況でしたが、令和3年度は新型コロナウイルスにより家庭で過ごす時間が増えたこともあり、やや下降傾向にあります。さらに体力向上を目指すため、幼児期から高校までの指導者が連携し、「元気な大田の子ども」を育てる取組が必要です。 ●魅力ある体育授業となるよう指導力の向上に努めるとともに、「新体力テスト」結果の子どもたちへの提供を継続し、体力向上に向けてのさらなる意欲の喚起を図る必要があり、「子どもの体力向上推進連絡協議会」を軸として、幼保から高校までの指導者が連携を強化し、「新体力テスト」の結果、「大田市共通の取組(※1)」を踏まえた効果的な指導が必要です。 ●学校での体育授業、部活動のみならず、地域でもスポーツに親しむことができる環境づくりが必要となりますが、成績を重視した若年期からのスポーツ活動による膝、肩、靭帯や腱等の使い過ぎによる故障や、バーンアウト(燃え尽き症候群)等が懸念され、これに配慮した活動が求められます。 ●近年、スポーツにおいて、県大会や全国大会等での生徒の活躍が目覚ましい一方で、スポーツが苦手だと感じている生徒との二極化が進行しています。

評価	検証
C	一部、(1)幼児からの運動・遊びの推進の記載に同じ 島根県が行っているACP(アクティブ・チャイルド・プログラム)に参加しており、大田市でも開催した。 スクールトレーナー事業(島根大学委託事業)を実施し、中学生を対象とした運動器の検診や改善指導を行った。

(3)スポーツ少年団の活動支援

前期計画の現状と課題
●スポーツ少年団本部について、大田市社会教育課が事務局を担当しており、会計や団員登録等の事務、交流会の開催等、様々な支援を行っています。 ●少子化による影響で団員が減少する中、団員募集や大会成績を紹介する等、スポーツ少年団活動の普及に努める必要があります。 ●スポーツ活動による故障等に配慮した指導が行われているか状況を把握し、必要に応じて団に対して適切な指導を促す必要があります。

評価	検証
B	大田市スポーツ少年団本部として交流イベントや研修会を行っている。また、大田市では全国大会に出場する個人・団体への激励金の交付を行っている。このほか、大田市として指導者向けの研修を開催するほか、単位団や保護者からの相談への対応を行っている。

4　スポーツ推進体制の強化

(1)スポーツ指導者及びボランティアの確保・育成

前期計画の現状と課題
●現指導者の高齢化や限られた人材のみが指導していることが問題となっています。スポーツ活動を継続的に推進するためには多くの指導者が必要となるため、引き続き現指導者のスキルアップを図ることが必要です。スポーツ推進委員は地域のスポーツ活動や各種スポーツイベント等の中心的な役割を担い、地域スポーツ活動の推進に向け積極的に活動を展開しているが、新たな人材の発掘が課題です。 ●スポーツ大会やスポーツイベントが行われる際、関係の協会・連盟のみで運営されるのが通常です。2030 年に島根県で開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、競技・種目を超えてのスポーツボランティア等、間接的にスポーツ活動に携わる人材の発掘が必要です。 ●本市においては、スポーツ活動に関する広報等の情報発信体制が整っていない現状があります。スポーツ活動を広める役割を担う人材・団体の発掘・育成が必要です。

評価	検証
C	地域からの養成やスポーツイベントにスポーツ推進委員の派遣を行っている。 指導者が不足している状況があり、指導者・スポーツボランティアの養成・育成は大きな課題となっている。加えて、指導者を対象としたケガ予防やハラスメント防止に関する研修を行っているが、継続的に実施していく必要がある。

(2)スポーツ関係団体との連携の強化と支援の充実

前期計画の現状と課題
●各種競技団体、地区体育団体等への「スポーツ推進計画」の認知度が低い現状であり、目指す姿や施策等の周知を図り、共通認識のもとでスポーツ推進に取り組む必要があります。 ●大田市体育協会加盟の団体（競技団体、地区体育協会、学校体育連盟）の活動は、単独の活動にとどまっている傾向にあります。団体間の連携を促し、一体的な活動が行われる取組を展開していく必要があります。 ●市民のスポーツニーズが多様化しており、その要請に応じるべき多様なスポーツ活動の場を確保していく必要があります。 ●任意団体である大田市体育協会のあるべき姿を具現化し将来にわたって組織運営できる体制づくりが必要となっている。

評価	検証
C	令和6年度より大田市体育協会から大田市スポーツ協会となり、事務局を事業団に設置し、体制強化を行った。スポーツ情報の収集・発信に努め、研修会を実施した。 人口減少・高齢化の影響から加盟団体は減少傾向である。大田市とスポーツ協会の連携はもとより、加盟団体との連携を深め、大田市スポーツ推進計画の推進や安全安心にスポーツ活動を行うための取組を行う必要がある。

5　スポーツに親しむ環境の整備・充実

(1)スポーツ施設の整備・充実

前期計画の現状と課題
●既存の施設・設備について、耐震補強や設備の更新、破損箇所の修繕等、対応が追いつかないものがあるのが現状です。適切な対応により、市民にとって安全で魅力あるスポーツ施設となるよう整備する必要があります。 ●温水プール等、市民からの要望がある施設設置について、本市の財政状況等を勘案し検討する必要があります。

評価	検証
C	国スポの会場となる大田総合体育館には令和9年度から空調が整備されることとなったが、スポーツ施設の多くは建築から相当の年数が経過しており、夏場における熱中症対策や競技を行うための十分な整備が行われていない状況である。 温水プールの整備について、具体的な方針は決定していないが、小中学校におけるプールのあり方や昨今の異常気象を考慮したうえで、検討を進める必要がある。

(2)効率的な学校体育施設等の運営と利便性の向上

前期計画の現状と課題
●地域のスポーツ活動は、学校体育施設(体育館・グラウンド)の開放や統合された学校施設(地区体育館・地区運動場)の利用が中心であり、今後も引き続き継続し、さらに利便性の向上に努めていく必要があります。 ●学校体育施設は、緊急時の避難所にも指定されており、防災的視点からも、地域密着型のスポーツ施設整備が必要です。 ●一方で、老朽化等により維持・管理が困難な施設も存在しており、今後のあり方を検討する必要があります。

評価	検証
C	地区体育施設の貸出や学校施設開放を行っており、多くの方が利用しているが、空き情報、予約、鍵の貸出、支払いなどがネット化(システム化)されておらず、改善を求める声がある。 維持管理が難しいスポーツ施設のあり方について、地域住民等と協議を行い、検討する必要がある。

前期計画におけるスポーツ施設の整備等の基本的な考え方と現状について

	施設名	（前期計画の基本的な考え） ⇒（現状）
1	三瓶高原クロスカントリーコース	三瓶西の原の景観を保持するためにも継続して維持管理を行う。 **⇒維持管理を行っている。**
2	屋内プールの整備	建設年次計画を立てて整備に向けて検討する。 **⇒整備の方針が決定していない。学校プールのあり方等を含め検討する。**
3	大田二中陸上競技場	公認継続しない。大田二中のグラウンドとして整備使用する。公式記録が必要な大会は近隣の市の施設利用を検討する。 **⇒学校のグラウンド、及び市民の陸上練習場として利用している。**
4	大田市民第2球場	付帯施設の更新整備はしない。大田二中のグラウンド（野球場）として使用する。 **⇒大田二中の野球場として利用するほか、一般への貸し出しも行っている。**
5	大田運動公園（鳥井）多目的広場	多目的広場として継続使用する。 **⇒多目的広場と利用している。**
6	大田運動公園（鳥井）野球広場	高齢者の自動車教習場として整備することを検討する。 **⇒大田市交通安全教育センターとして整備を行った。**
7	地区体育館	当面は継続する。耐用年数や安全性を確認し、継続について検討する。 **⇒馬路地区体育館は令和9年度に撤去予定。その他の体育館は継続して利用している。**
8	地区運動場	当面は維持管理を行い、地域の運動場として使用する。 **⇒運動場として利用している。**
9	伝統芸能伝承館、文化振興会館	当面は継続する。耐用年数や安全性を確認し、継続について検討する。 **⇒継続して利用している。**
10	その他施設	耐用年数を経過して、使用に危険がある場合には廃止する。 **⇒施設状態の確認を行っている。**

（3）スポーツ情報の発信

前期計画の現状と課題
●現在は、「三瓶高原クロスカントリー大会」等の本市が主催する大会について参加募集等を本市の広報誌、ホームページで行っています。その他のスポーツ情報は、総合体育館のホームページ等が主な情報発信であり、十分な情報収集・発信ができている状況ではなく、情報を様々な媒体を活用し効果的に発信していくことが求められています。 ●多くの市民がスポーツに関心を持ち、スポーツ活動をする（観る、ささえる）ためには、効率的、かつ、有効な情報発信が必要です。 ●2030 年に島根県で開催される国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会に向けて、県民が一丸となってスポーツを「楽しむ」ことができるような気運の醸成が必要となります。

評価	検証
B	スポーツ情報に関しては、広報おおだ、ケーブルテレビ、大田市ホームページなどで発信しているほか、SNS での情報発信も行っており、手元に情報が届きやすくなった。今後も複数のチャンネルで情報を発信していくことが必要である。

第2章　計画の構成

1 計画の目指す姿

スポーツライフの実現による元気で活力のあるまち「おおだ」

2 基本的な考え方

◆ スポーツ活動を通じた「人づくり」

◆ スポーツ活動を通じた「健康つくり」

◆ スポーツ活動を通じた「地域づくり」

3 基本方針と施策

基本方針	基本施策
ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	子育て・働き盛り期のスポーツ活動への参加機会の充実 高齢期の運動・スポーツを通じた運動習慣の定着 障がいのある人のスポーツ活動の推進
夢と感動をもたらすスポーツ活動の推進	競技スポーツの推進 観るスポーツの推進とトップアスリートとの交流 島根かみあり国スポ・全スポに向けた取り組みの推進
子どものスポーツ活動の推進	幼児期からの運動・遊びの推進 子どもの体力向上の推進 スポーツ少年団の活動支援 部活動の地域展開に向けた対応
スポーツ推進体制の強化	スポーツ指導者、ボランティアの確保・育成 スポーツ関係団体との連携の強化と支援の充実
スポーツに親しむ環境の整備・充実	スポーツ環境の整備・充実 効率的な学校体育施設等の運営と利便性の向上 スポーツ情報の発信

1 計画の目指す姿

スポーツライフの実現による元気で活力のあるまち「おおだ」

スポーツは、世界共通の人類の文化であり、誰もが生涯にわたり親しみ、楽しむことができるものです 。競技として行うスポーツだけでなく、健康づくりや仲間との交流、地域とのつながりを生む幅広い活動を促進し、誰もが気軽に参加できる環境づくりを進めることで、元気で活力のあるまち「おおだ」の実現を目指します。

2 基本的な考え方

スポーツ基本法が示す、スポーツを世界共通の人類の文化として捉え、すべての人が生涯にわたりスポーツに親しみ、楽しむことができる環境づくりを進めます。また、スポーツ活動を通じて、幼児期から高齢期まで生涯を見通したウェルビーイングの実現と、地域の成長・発展を目指します。そのため、大田市においても、「スポーツ基本法」の理念を踏まえて、スポーツを推進していくために計画を策定します。

◆ スポーツ活動を通じた「人づくり」

スポーツは、体力や運動能力の向上に加え、挑戦する意欲、協調性、規律性、責任感、達成感などを育むとともに、人間的な成長を促す重要な機会となります。誰もが年齢や性別、障がいの有無にかかわらず、ライフステージや目的に応じてスポーツに親しみ、楽しみ、継続して参加できるよう、スポーツへの参加機会の充実と参加しやすい環境づくりを進めます。

また、スポーツを持続的に推進していくために、スポーツに関わる団体等が連携しながら、指導者やボランティアの育成、次世代を担う人材の発掘・養成に取り組む必要があります。こうした取組を通じて、スポーツへの参加を広げるとともに、地域のスポーツ活動を支える人づくりを進めます。

◆ スポーツ活動を通じた「健康つくり」

スポーツは、市民の健康の保持増進、体力の向上、生活習慣病の予防、介護予防の推進に資する重要な取組です。日常生活の中で気軽にスポーツに取り組むことができる環境整備が必要です。「おおだ健やかプラン」における身体活動・運動に関する取組や、介護予防活動を行う地域、・団体と連携を図り、ライフステージや身体状況に応じて、誰もが継続してスポーツに親しめる環境づくりを進め、心身の健康づくりを行います。

◆ スポーツ活動を通じた「地域づくり」

スポーツは、世代や立場を超えた交流を生み出し、地域のつながりや一体感を育むとともに、地域の活力や魅力を高める力を持っています。地域の運動会やスポーツイベントなどに市民が参加し、その活動を観てスポーツを楽しむこと、各種スポーツを地域住民が支えることにより、スポーツの楽しさや感動を共有し、地域の一体感や活力を醸成することができます。スポーツ活動を通じて、市民がつながり、支えあい、元気で活力ある地域づくりを推進します。

3 基本方針と施策

(1)ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

スポーツは、心身の健全な発達、健康及び体力の保持増進に効果的であり、生涯にわたり心身ともに健康で文化的な生活を営む上で不可欠です。人種、性別、年齢、障がいの有無等にかかわらず、誰もが自分に合った形でスポーツに親しめるよう、ライフステージや生活環境に応じた参加機会を充実させることが必要です。

ア 子育て・働き盛り期のスポーツ活動への参加機会の充実

現状と課題	●定期的に運動を行っている市民の割合は約45％で、半数を下回っています。また、市民のスポーツ・運動に対する敷居が高いという実態があります。 ●運動を行わない主な理由は「忙しい（時間がない）」ことと「運動習慣の欠如」であり、短時間で気軽に取り組める運動機会の提供と運動習慣化の支援が必要です。
施策	①スポーツイベント・教室の開催
	開催時期や時間帯等、利用者のニーズの把握に努め、参加しやすいスポーツイベントやスポーツ教室を開催します。
	②総合型地域スポーツクラブの充実
	総合型地域スポーツクラブがより魅力あるクラブとして市民が参加したくなるような種目の増加を目指します。
	③ウォーキングやニュースポーツ等の軽スポーツの普及
	スポレク広場を継続的に開催することで、ニュースポーツに触れる機会を創出します。スポーツ活動と健康増進の啓発への動機付けを高めるよう、家庭や職場への働きかけを行います。

イ 高齢期の運動・スポーツを通じた運動習慣の定着

現状と課題	●介護予防事業に自発的に参加する65歳以上の割合は人口の14.5％と低く、参加促進策が求められます。 ●高齢者向けのスポーツ活動推進のため、高齢者のニーズに対応したスポーツ活動が身近な地域で行えるよう、関係機関と連携する必要があります。
施策	①健康を考える機会の提供
	体力チェックイベントなど、現状での自己の体力を知る機会を設け、スポーツを継続する意義や健康を考える機会を増やします。また、関係部局と連携し、健康アプリを活用した健康増進に努めます。
	②介護予防事業等への指導者の派遣及び普及
	高齢者が、楽しく、無理なく体を動かすことができるように、地域の集まりにスポーツ推進委員等の指導者を派遣することによる軽スポーツの実施や、関係部局や地域と連携し、「ラジオ体操」、「0854－8体操」、「ADL体操」等、介護予防や自立の支援・促進に役立つ運動の普及を図ります。 ※ADL体操：日々の動作をスムーズに行うための身体機能を維持・向上させる目的で行う運動

ウ　障がいのある人のスポーツ活動の推進

現状と課題	●障がい者スポーツを取りまとめる団体が存在せず、市の関係部局を含む関係団体間の連携が弱い実態があります。一方で、スペシャルオリンピックスの活動として、サッカーやバレーボールにおいて、アスリートへの指導が認定コーチを含むボランティアにより実施されてます。 ●関係部局や大田市社会福祉協議会、障がい者関係団体と連携し、誰もが一緒になってスポーツ活動を行えるよう、環境整備が必要です。 ●障がい者スポーツの普及や競技力の向上に向けた取組等においては、施設のバリアフリー化、指導者不足等の課題があります。
施策	①障がい者スポーツへの参加機会の確保
	関係部局等と連携し、現在実施している障がい者スポーツの普及・拡大を目指し、県等が行う競技会やイベント等の情報収集・発信を行い、障がいのある人がスポーツに参加する機会の確保に努めます。
	②誰もが一緒にスポーツに親しむ環境づくり
	障がいのある人もない人も、一緒にスポーツに親しむことができるよう、環境づくりに努めます。
	③障がい者スポーツ継続のための環境づくり
	障がい者スポーツに携わる指導者・支援者の確保や、施設のバリアフリー化等障がい者スポーツを継続できる環境づくりに努めます。
	④障がい者スポーツの情報発信
	大田市スポーツ協会と連携し、スペシャルオリンピックスの活動や障がい者スポーツの情報を収集・発信します。

（2）夢と感動をもたらすスポーツ活動の推進

競技スポーツにおいて、市民や本市出身者の活躍、スポーツを観ることやトップアスリートの交流は、市民に誇りと喜び、夢と感動を与え、市民のスポーツへの関心や参加意欲を高めることにつながります。あわせて、島根かみあり国スポ・全スポに向けた取組を進め、地域の競技力向上と機運醸成を図ることが必要です。

ア 競技スポーツの推進

現状と課題	●激励金交付制度等の状況から、人口減少にも関わらず全国大会に出場している優秀が競技者がいます。 ●競技力を向上させ、継続的な活動へ発展させるために、指導者のスキルアップとスポーツ指導者の確保・育成が課題です。
施策	①競技力向上の意識づけ
	指導者のスキルアップを図るための指導者研修会を継続して実施します。また、大田市スポーツ協会等と連携して全国レベルのトップアスリートや指導者を招致し、市民が一流に触れる機会を提供し、競技力向上・運動意識の向上を図ります。
	②スポーツ選手への支援
	全国大会出場者に対する激励金交付制度による支援や大田市スポーツ協会による競技団体への補助事業や選手強化事業を実施するとともに、優秀な成績を収めた選手の顕彰等を通じて、スポーツ選手を支援します。
	③子どもたちへの支援
	子どもたちにプロスポーツ選手等によるスポーツ教室や交流会を開催し、プロスポーツに親しむ機会が少ない地域の子どもたちに夢や希望を与えることのできる取組を進めます。

イ 観るスポーツの推進とトップアスリートとの交流

現状と課題	●スポーツ観戦に興味が「非常にある」「ある程度ある」と回答した人は約73％で、スポーツを観ることに関心が高い実態があります。 ●間近で一流のスポーツに触れる機会を増やし、スポーツへの関心を高める取組を進めていく必要があります。
施策	①観る、交流する機会づくり
	プロスポーツ選手やトップアスリートを招致する等により、高い技術を「観る」、または「指導を受ける、交流する」等の機会づくりに努めます。
	②大会、合宿の誘致
	市民のスポーツへの関心を高めるために、県中央部としての地域的特性を活かし、小学校や中学校、高等学校等の各種大会や合宿の誘致に努めます。
	③スポーツ情報の体制整備
	各種スポーツ関係団体と連携し、大会開催等の情報収集・発信体制を整備します。

ウ　島根かみあり国スポ・全スポに向けた取組の推進

現状と課題	●国スポ・全スポの開催を契機として、スポーツへの関心の高まりに繋がる取組を進めるとともに、スポーツを楽しむ環境の整備を進める必要があります。 ●国スポの開催競技を含む、競技力全般の向上と支援体制の整備が必要です。 ●市内で実施される弓道、空手道、銃剣道への理解を、深める必要があります。
施策	①市内で開催される3競技の認知度向上
	弓道、空手道、銃剣道への理解を深めるために、大田市スポーツ協会とともに競技の認知度向上に努めます。
	②大会開催に向けた機運醸成
	大田市スポーツ協会と連携して、プレ大会を含む大会の周知や国スポ・全スポ関連イベントの開催などにより、スポーツに対する関心を高める取組を行います。

（3）子どものスポーツ活動の推進

幼少期から多様な運動や遊びを経験することが、基礎的な身体能力の向上や健全な心身の育成につながります。幼児期からの運動や遊びの機会を確保し、子どもの体力向上と健やかな成長を支援します。あわせて、スポーツ少年団の活動支援や部活動の地域展開に向けた環境整備を進め、子どもたちが継続してスポーツに取り組める体制を整える必要があります。

ア　幼児期からの運動・遊びの推進

現状と課題	●幼少期における走る・支えるなどの基本的な動作経験が不足しています。 ●スポーツの楽しさを感じる取組が必要です。就学前に到達しておきたい運動レベルの目標を定め、個々を尊重しながらも幼児教育施設が幼児期の体力向上に取り組む必要があります。
施策	①幼児教育施設共通の取組 関係部局等と連携し、幼児教育施設が現状と課題を認識し、幼児期の体力向上に向けて取り組むよう働きかけます。また、大田総合体育館の幼児を対象とした運動遊び教室などスポーツイベントへの参加を促し、幼児期の運動遊びのきっかけづくりを行います。

イ　子どもの体力向上の推進

現状と課題	●数十年前と比較して生活習慣や環境が変化したため、親世代が当たり前にできていた動作が現在の子どもにはできなくなっています。 ●幼児教育施設から高校までの指導者が連携を強化し、「新体力テスト」の結果など、現状を踏まえた効果的な指導が必要です。 ●小中学生の体力低下が進んでおり、運動習慣の有無による体力の二極化が見られます。
施策	①子どもの体力向上の取組 小中学生を対象に実施している「新体力テスト」を継続し、実態把握に努めます。「大田市小・中学校スポーツテスト活用会議」において、運動実態に関する協議・検討を引き続き行います。小中学生の実態に合わせた効果的な取組を行い、体力向上を目指します。そのため、体を動かすきっかけづくりとなる事業を行います。また、中学生を対象としたスクールトレーナー事業を継続し、運動器の検診や改善指導を行います。
	②小中学生の主体性の醸成 小中学生が自身の「新体力テスト」の結果を認知し、さらなる体力向上に向け、自己目標を設定し主体的に体力づくりに取り組むことのできる環境整備に努めます。
	③体力づくりの習慣化 県教育委員会が進めている「しまねっ子！元気アップ・プログラム」等への積極的・継続的な参加を促進し、学校における体力づくりを習慣化するような取組を進めます。

ウ　スポーツ少年団の活動支援

現状と課題	●スポーツ少年団本部について、大田市社会教育課が事務局を担当しており、会計や団員登録等の事務、交流会の開催等、様々な支援を行っています。 ●スポーツ少年団に加入していない団体の活動状況を把握できていない実態があります。 ●少子化による影響で団員が減少する中、団員募集や大会成績を紹介する等、スポーツ少年団活動の普及に努める必要があります。 ●スポーツ活動による故障やハラスメントなどの問題に対して、適切な指導が行われているかの把握に努め、必要に応じて団に対して適切な指導を促す必要があります。
施策	①スポーツ少年団に対する支援等
	交流大会の開催、研修・大会参加等に係る助成など支援を行います。
	②発達段階に応じた指導
	子どもの発達段階に応じた指導を行うために、スポーツ少年団や競技団体の指導者向けの研修を実施し、質の向上・確保に努めます。

エ　部活動の地域展開に向けた対応

現状と課題	●部活動の地域展開や地域との連携強化が必要です。指導者の活躍の場を確保する必要があります。 ●教員や指導者の知識の幅が不足しており、研修参加率も低い実態があります。 ●部活動の地域展開により、スポーツから離れていくことが懸念されます。
施策	①部活動地域展開の受け皿確保
	スポーツ少年団や競技団体などに働きかけ、地域の受け皿の確保に努めます。あわせて、指導者登録制度を構築し、人材の確保に努めます。部活動であることを踏まえ、ガイドラインに沿った適切な指導を行うための研修等を実施します。

（4）スポーツ推進体制の強化

スポーツは、市民が主体的に協働することにより身近に親しむことができるとともに、全ての世代の人々の交流が促進され、地域間の交流の基盤を形成するものです。スポーツを持続的に推進するため、指導者やボランティアの確保・育成を進めるとともに、スポーツ関係団体との連携強化と支援の充実を図る必要があります。

ア　スポーツ指導者及びボランティアの確保・育成

現状と課題	●指導者の高齢化や限られた人材のみが指導しているため、スポーツ活動を継続的に推進していくために、新たな指導者の発掘・育成が必要です。 ●スポーツ推進委員は地域のスポーツ活動や各種スポーツイベント等の中心的な役割を担い、地域スポーツ活動の推進に向けて活動しているが、新たな人材の発掘が課題です。
施策	①スポーツ推進委員活動の充実・強化
	スポーツ推進委員の活動内容を充実・強化し、委員の資質の向上を図るため、研修会や講習会に積極的に参加を促すよう努めます。
	②スポーツ指導者の確保・育成
	新たな指導者育成、スポーツ環境の整備、スポーツハラスメント等に関する研修会を実施し、指導者のスキルアップと意識の向上を図ります。
	③スポーツボランティア育成に向けた仕組みづくり
	競技団体や大田市社会福祉協議会と連携し、スポーツボランティアの育成に取り組みます。スポーツボランティアに興味を持つ市民に情報提供を行い、スポーツイベントへの参加を促します。

イ　スポーツ関係団体との連携の強化と支援の充実

現状と課題	●各種競技団体、地区体育団体等への「スポーツ推進計画」の認知度が低い現状があるため、計画の周知を図り、共通認識のもとでスポーツ推進に取り組む必要があります。 ●スポーツイベントや教室の周知方法を強化し、参加者を増加させる必要があります。 ●スポーツ協会の団体（競技団体、地区体育協会、学校体育連盟）の活動は、単独の活動にとどまっている傾向にあり、スポーツ協会と各競技団体との情報共有・連携が十分でない実態があります。団体間の連携を促し、一体的な活動が行われる取組を展開していく必要があります。
施策	①大田市スポーツ協会の体制強化
	大田市スポーツ協会と社会教育課が連携し、大田市におけるスポーツの拠点としての機能を果たすため、組織力の強化に努めます。
	②大田市スポーツ協会加盟団体の連携・意識啓発
	大田市スポーツ協会と加盟団体の連携を図り、積極的な情報収集・発信を行います。協会及び加盟団体に働きかけ、大田市スポーツ推進計画の趣旨を踏まえた活動となるよう意識啓発に努めます。

（5）スポーツに親しむ環境の整備・充実

誰もが気軽にスポーツに取り組めるよう、スポーツ施設や学校体育施設等の環境整備・充実を進めることが必要です。あわせて、施設の利用しやすさの向上やスポーツ情報の発信を強化し、市民が継続的にスポーツに親しめる環境を整える必要があります。

ア　スポーツ施設の整備・充実

現状と課題	●既存の施設・設備について、適切な対応により市民にとって安全で魅力のあるスポーツ施設となるよう整備する必要があります。 ●気候変動に伴う熱中症対策のため、空調設置等の対策が求められています。 ●体育施設の予約方法や利用方法について、オンライン申請の導入等により利便性の向上が求められています。
施策	①スポーツ施設の整備・改修
	近年の気候変動に伴う熱中症対策やバリアフリー化など、必要な整備・改修等を進めます。また、スポーツ施設の予約管理についてオンライン化を検討します。
	②三瓶西の原周辺の環境整備について
	三瓶西の原特有の自然環境の景観の保持・環境美化のためにも引き続き三瓶高原クロスカントリーコース等の環境整備に努めます。

イ　効率的な学校体育施設等の運営と利便性の向上

現状と課題	●小中学校の体育館や地区体育館の多くは経年劣化が見られます。施設の劣化状況、利用状況、地理的な要因を含めて、施設の統合・廃止を検討する必要があります。 ●スポーツ施設は緊急時の避難所にも指定されており、防災的視点を踏まえた整備も必要です。
施策	①学校施設開放事業の継続
	引き続き学校施設開放事業を実施し、地域のスポーツ拠点として活用します。
	②地区体育館・地区運動場等の活用継続
	地区体育館・地区運動場を地域のスポーツ拠点として活用します。近年の気候変動に伴う熱中症対策やバリアフリー化など安全・環境面を考慮した整備を行います。施設の老朽化の状況を把握し、整理・統合を検討します。
	③防災的視点にたった施設の整備
	スポーツ施設は緊急時に地域の防災施設となるため、非常時の利用を想定した施設整備を行います。

ウ　スポーツ情報の発信

現状と課題	●「三瓶高原クロスカントリー大会」等の大田市が主催する大会は、参加募集等を広報誌、ホームページ等のSNSを活用して行っています。 ●スポーツ情報は、大田総合体育館のホームページ等により情報発信を行っていますが、十分な情報収集ができていません。 ●施設や整備状況の情報を周知するとともに、各種イベントや研修の情報を効果的に発信し、施設利用や市民参加を促す取り組みが必要です。
施策	①市民への情報発信方法 SNSをはじめとする各種媒体を活用し、幅広い年代や必要な人に必要な情報が行き届くよう情報の集約・発信に努め、市民がスポーツ情報に接しやすい環境を整備していきます。 また、情報の一元化の仕組みづくりを大田市スポーツ協会とともに検討します。

計画達成指標

1	成人の週1回以上のスポーツ実施率
2	小中学生の「(授業以外の)運動の習慣化(実態)」と答えた割合
3	障がいのある人の週1回以上のスポーツ実施率
4	直近1年間に「する・みる」のどちらかでスポーツにかかわった市民の割合
5	地域スポーツ活動における満足度
6	高齢者の介護予防・生活機能維持プログラムへの参加率(65歳以上)
7	スポーツ施設のバリアフリー化率
8	市民参加型スポーツイベント開催回数と総参加者数
9	総合型地域スポーツクラブの登録種目数、及び会員数
10	スポーツ協会の加盟団体数
11	スポーツ推進委員の活動数
12	スポーツ施設の年間利用者数
13	指導者(コーチを含む)の登録数、指導者向け研修の実施回数
	ボランティア・支える側の参加率

※ここで言うスポーツとは体を動かすこと、運動全般を指す

第3章　計画の推進及び進行管理

1　計画の推進

計画の内容を効果的・効率的に推進するため、次の事項に留意した取組を行います。

（1）市民の理解と協力

スポーツ基本法では「スポーツは世界共通の人類の文化である」と捉え直し、さらに「スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利である」と位置づけています。こうした新たなスポーツの価値を理解し、日常的な環境の中で普及・発展させていくよう市民の理解と協力を得ながら事業の推進を図ります。

（2）スポーツ関係団体との連携

大田市スポーツ協会や小学校体育連盟、中学校体育連盟、高等学校体育連盟、スポーツ少年団本部等のスポーツ協会加盟団体、銀ギン gin スポーツクラブ、スポーツ推進委員協議会、大田総合体育館等、スポーツ関係団体の活動を支援するとともに連携を密にし、スポーツ推進体制の充実に努めます。

（3）島根県、島根県スポーツ協会、及び大学との連携

島根県及び島根県スポーツ協会をはじめとするスポーツ関係組織・団体に加え、スポーツドクターや指導者の派遣、クラブ運営・活動等全般に対する指導支援等を行う「しまね広域スポーツセンター」との連携を図ります。
また、連携協定を結ぶ大学や事業委託を行っている大学と連携を図り、専門的な知見を踏まえた取り組みを進めます。

（4）学校・家庭・地域の連携

子どもたちの体力向上を図るには、学校だけでなく家庭や地域が、運動クラブ、家庭生活、地域活動等幅広い分野で連携した取組を行う必要があり、子どもたちの体力向上の重要性について正しく認識できる連携体制の強化に努めます。

（5）行政内部の連携

スポーツ活動を推進することで、子どもたちの体力向上、青少年の健全育成、市民の健康つくり、スポーツ活動を通じた地域間交流の活性化等多くの効果が期待できます。本計画の実現には、教育部局だけでなく、関係部局との施策との連携が必要であり、行政内部の連携を強化し、お互いに情報交換や事業実施の協力を行うよう努めます。

（6）計画推進の財政措置

大田市とスポーツ関係団体等は、計画を実現するために必要な予算等資金の確保とその調整に努め、活用可能な財源を模索しながら計画的、かつ、有効に執行できるよう努めます。

２ 進行管理

（1）情報の受発信

本計画を実現するためには、計画の存在、内容を多くの市民に知ってもらうことが必要です。大田市からはもちろん、スポーツ協会、指定管理者、スポーツクラブ等、それぞれが役割に応じて積極的に情報発信していかなければなりません。また、年々変化する市民ニーズ、社会・経済情勢の変化を的確に捉え、情報収集・分析、効果的な情報発信の体制整備を行い、計画の実現に向けて活用するよう努めます。

（2）計画の評価及び見直し

計画の円滑な達成のためには、事業実施に対する適切な評価が必要です。スポーツ関係団体や学校関係団体等の代表、学識経験者等で構成する「大田市スポーツ推進審議会」において計画の評価及び調査による提言をいただき、必要に応じて計画の見直しについて検討します。

（3）指標の導入

施策の達成度、及び成果を客観的に評価・検証するため、本計画より数値指標を設定・導入します。毎年度の進捗状況を把握・分析し、適切な進行管理を行うとともにPDCAサイクルに基づく施策の改善に活用します。

Ⅳ　資料編

◆ 新体力テスト実施に伴うアンケート結果

◆ スポーツに関するアンケート結果

◆ 大田市体育施設一覧表

◆ 大田市スポーツ少年団の状況

◆ 大田市小・中学校等体育館施設開放状況

◆ 大田市体育施設利用状況

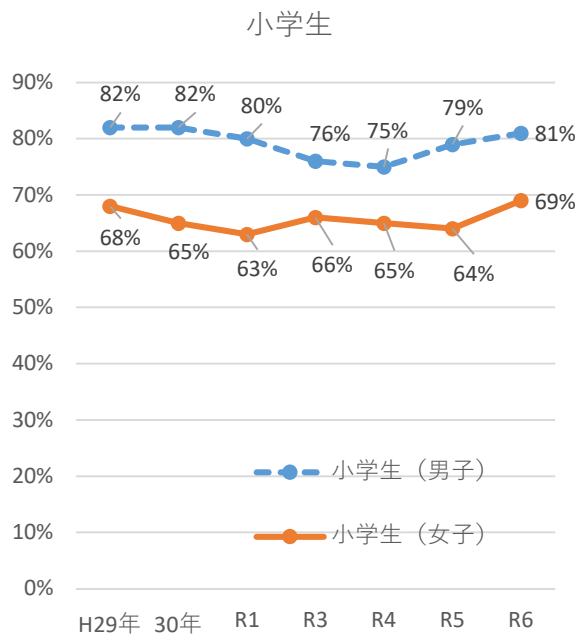
◆ 大田市スポーツ推進審議会委員名簿

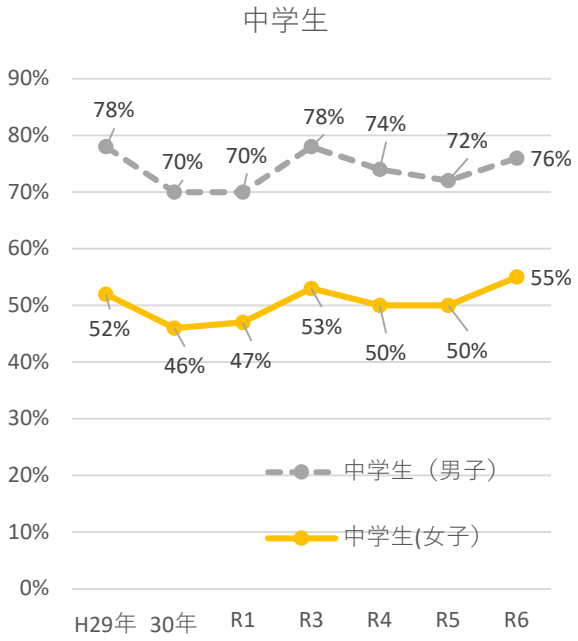
新体力テスト実施に伴うアンケート結果

調査対象：市内小学校　１年生～６年生、市内中学校　１年生～３年生
調査期間：各小中学校の新体力テスト実施にあわせて調査
回答件数：市内小学生　1,346 名、市内中学生　734 名　（合計　2,080 名）

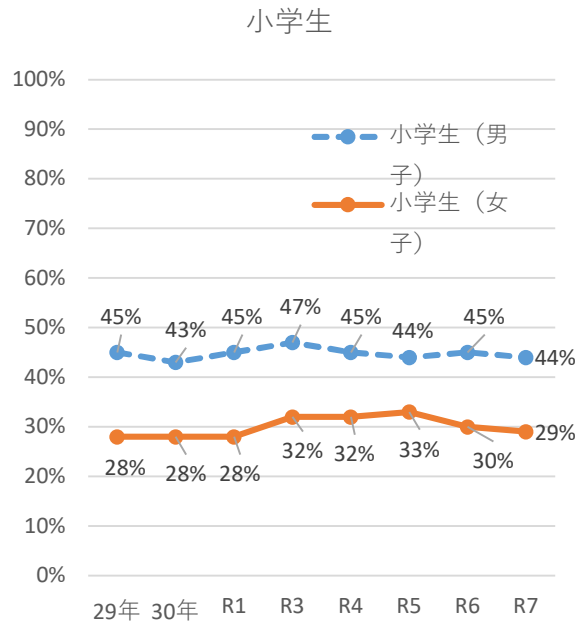
（一部抜粋）

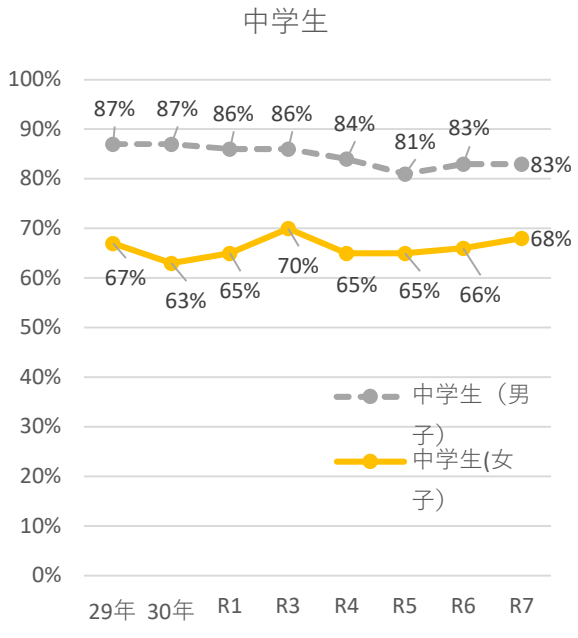
（1）運動・スポーツが好き



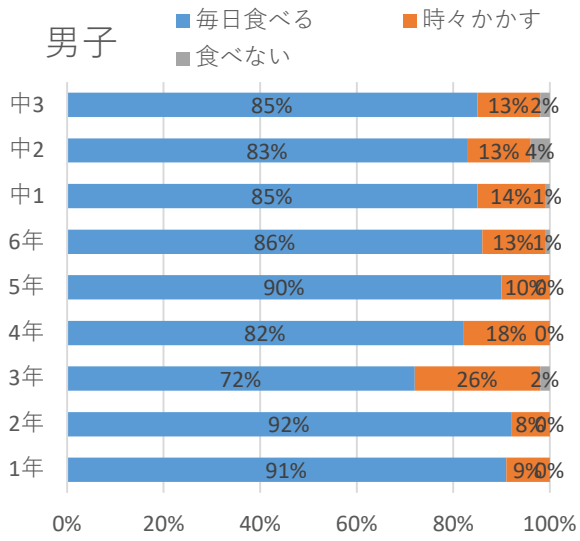


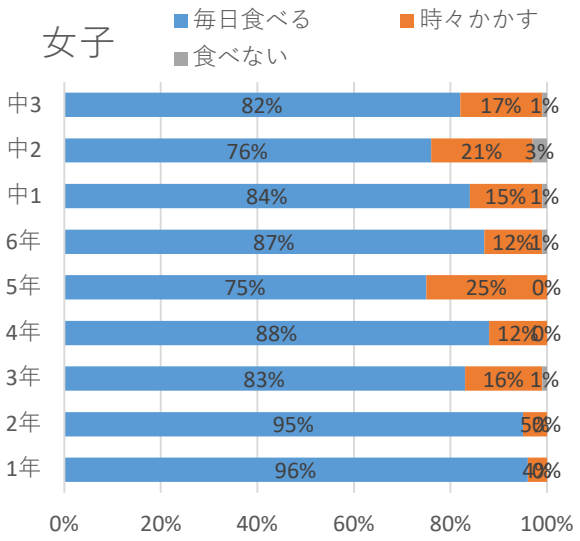
（2）運動・スポーツの実施状況（３日以上）



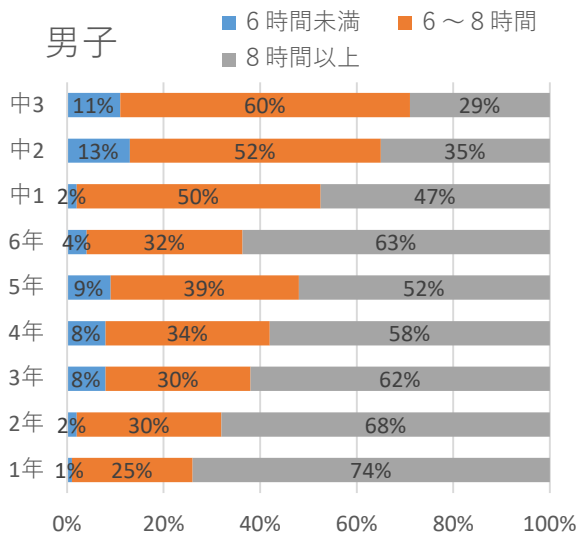


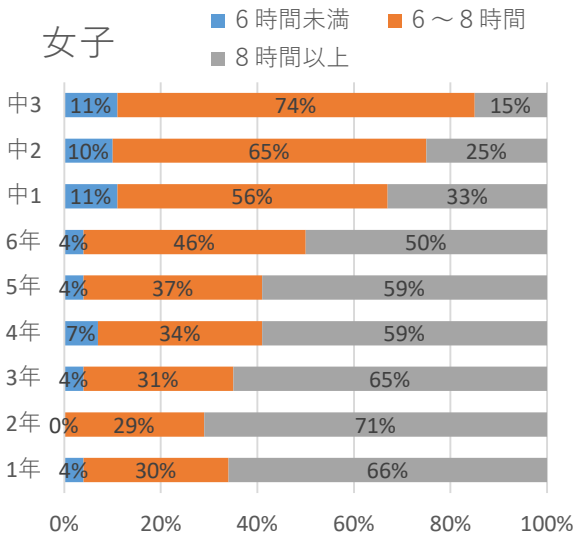
（３）朝食の有無





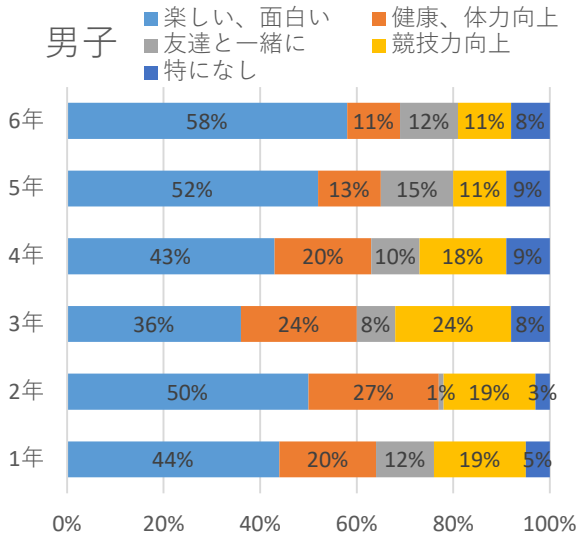
（４）１日の睡眠時間

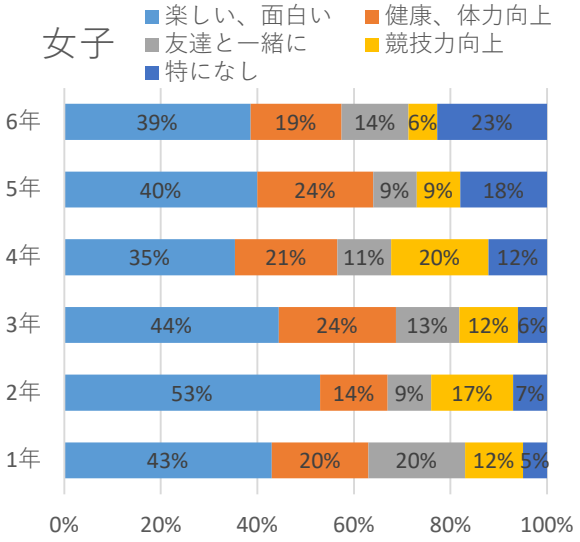




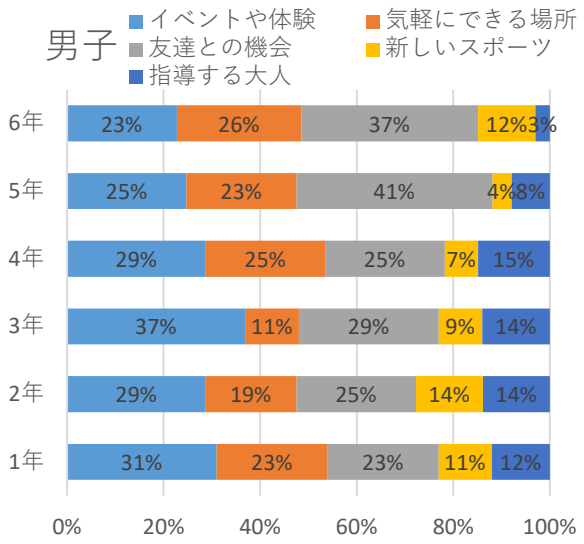
※以下、小学生のみのアンケート

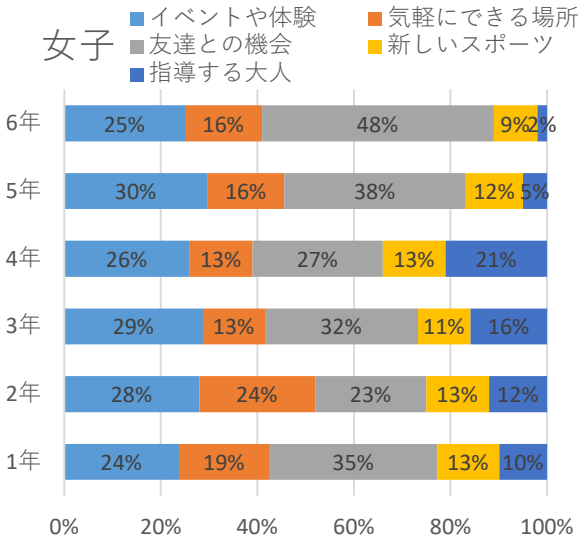
（５）スポーツをする理由



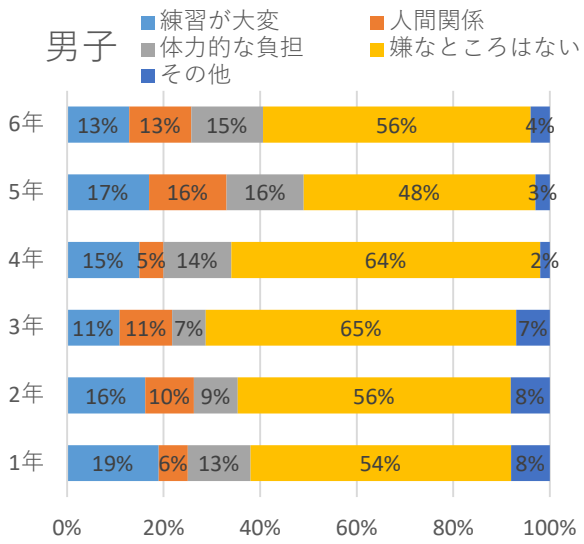


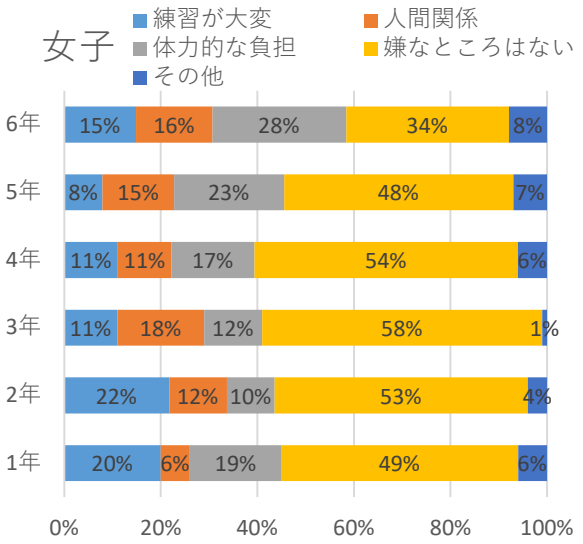
（6）もっと運動をしたくなるには



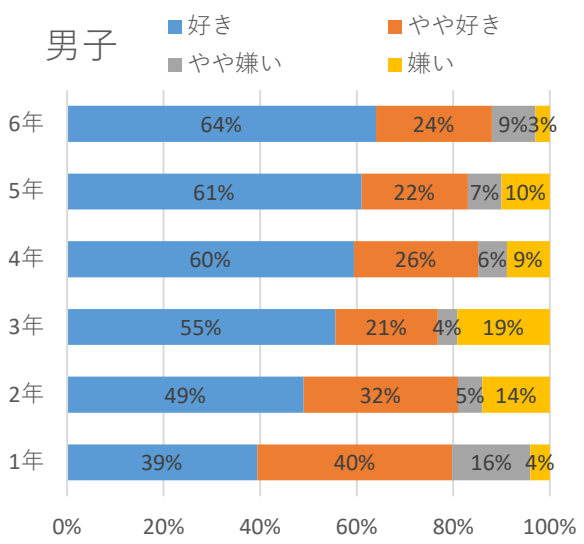


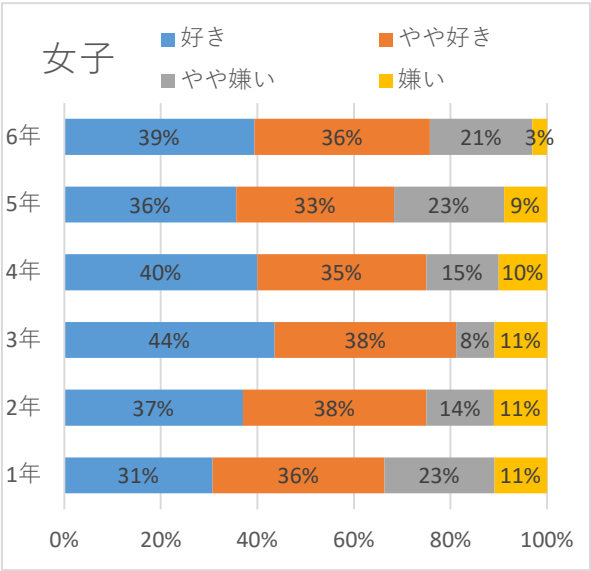
（7）スポーツの嫌なところ





（8）スポーツを観るのは好きですか





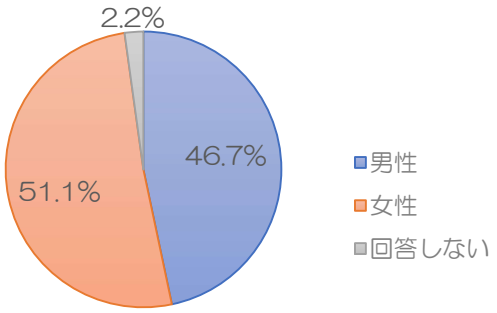
スポーツに関するアンケート実施結果

調査対象：大田市内に在住する高校生以上
調査期間：令和７年９月１日（月）～12 月 31 日（水）
依頼方法：市ホームページや SNS、市広報誌などによる周知
回答方法：「しまね電子申請サービス」の Web アンケートフォームによる回答
回答件数：409 件

1. 回答者の属性

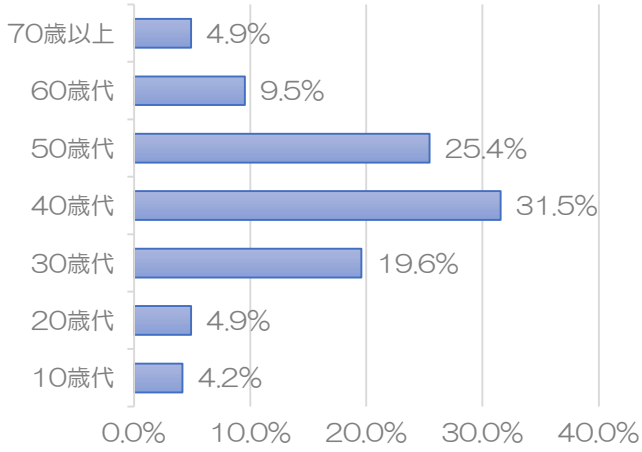
（1）性別

No	区分	件数	割合
1	男性	191	47%
2	女性	209	51%
3	回答しない	9	2%
	全体	409	100%



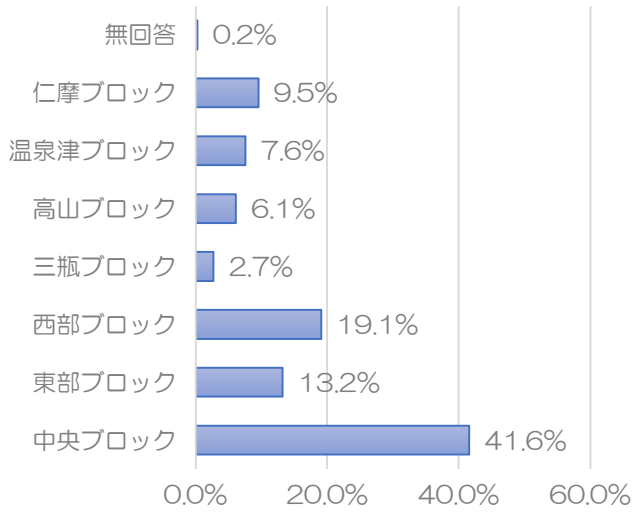
（2）年齢

No	区分	件数	割合
1	10 歳代	17	4.2%
2	20 歳代	20	4.9%
3	30 歳代	80	19.6%
4	40 歳代	129	31.5%
5	50 歳代	104	25.4%
6	60 歳代	39	9.5%
7	70 歳以上	20	4.9%
	全体	409	100%



（3）お住まいの地域（例：〇〇町）

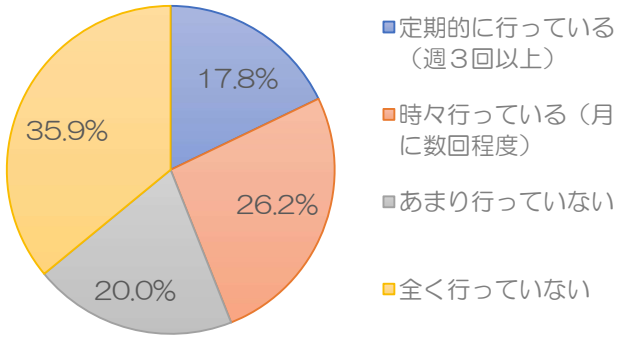
No	区分	件数	割合
1	中央ブロック	170	41.6%
2	東部ブロック	54	13.2%
3	西部ブロック	78	19.1%
4	三瓶ブロック	11	2.7%
5	高山ブロック	25	6.1%
6	温泉津ブロック	31	7.6%
7	仁摩ブロック	39	9.5%
8	無回答	1	0.2%
	全体	409	100%



2. スポーツ・運動の実施状況について

（1）現在スポーツや運動を行っているか

No	頻度	件数	割合
1	定期的に行っている（週３回以上）	73	17.8%
2	時々行っている（月に数回程度）	107	26.2%
3	あまり行っていない	82	20.0%
4	全く行っていない	147	35.9%
	全体	409	100%



※（1）で「定期的に行っている」「時々行っている」「あまり行っていない」を回答された方より調査

（2）主に行っているスポーツや運動の種目（複数回答、上位 10 項目）

No	種目	件数	割合
1	ウォーキング（散歩など含む）	122	29.8%
2	筋力トレーニング	51	12.5%
3	ジョギング	48	11.7%
4	健康体操（ストレッチ、3B 体操など）	32	7.8%
5	サッカー・フットサル	21	5.1%
6	バレーボール	19	4.6%
7	野球・ソフトボール	16	3.9%
8	ヨガ	14	3.4%
9	テニス（ソフトテニス含む）	12	2.9%
10	卓球	10	2.4%

（3）スポーツ・運動を行う主な理由（複数回答、上位５項目）

No	主な理由	件数	割合
1	健康のため	195	33.4%
2	体力づくりのため	114	19.5%
3	趣味・楽しみ	110	18.8%
4	ストレス解消のため	84	14.4%
5	仲間づくり	31	5.3%

（4）スポーツ・運動を行う場所（複数選択可）

No	主な理由	件数	割合
1	自宅・自宅周辺	161	42.6%
2	市内体育施設	64	16.9%
3	学校開放施設	52	13.8%
4	公園・ウォーキングコース	29	7.7%
5	スポーツクラブ・ジム	27	7.1%

市内体育施設…総合体育館、地区体育館、地区運動場、市民球場、テニスコートなど
学校開放施設…小・中学校体育館、小・中学校運動場

※(1)で「あまり行っていない」「全く行っていない」を回答された方より調査

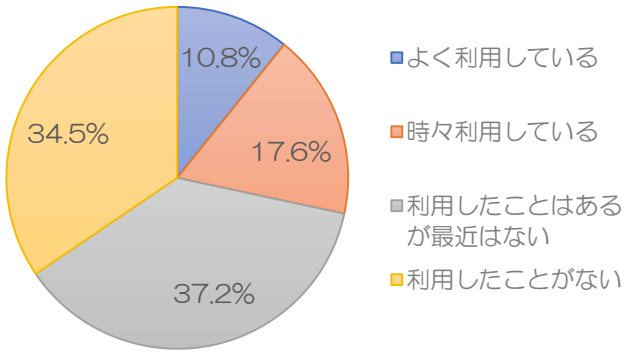
（5）スポーツ・運動をしない・できない理由（複数回答、上位５項目）

No	主な理由	件数	割合
1	忙しい（時間がない）から	128	31.1%
2	面倒・習慣がないから	90	21.9%
3	運動できる場所が近くにないから	46	11.2%
4	一緒にやる人がいないから	39	9.5%
5	費用がかかるから	32	7.8%

3. 市内の取り組みに関する調査

（1）大田市内のまちづくりセンター等含むスポーツ・運動ができる施設（以下、スポーツ施設等）を利用したことがあるか。

No	区分	件数	割合
1	よく利用している	44	11%
2	時々利用している	72	18%
3	利用したことはあるが最近はない	152	37%
4	利用したことがない	141	34%
	全体	409	100%



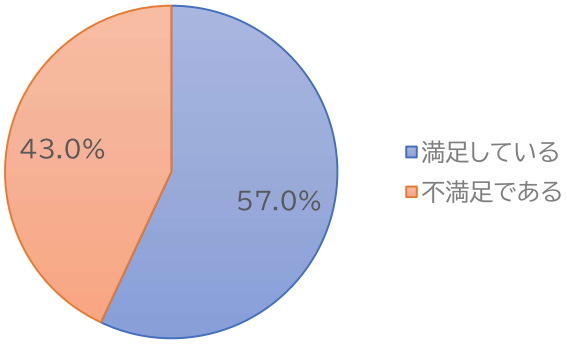
（2）スポーツ・運動を行う際、よく利用する施設や場所があれば教えてください

・大田総合体育館　・市内小中学校体育館、グラウンド　・まちづくりセンター
・温泉津総合体育館　・テニスコート　・地元スポーツジム
・市内地区体育館、グラウンド　など

（3）現在のスポーツ施設等について

①整備状況

No	区分	件数	割合
1	満足している	147	57.0%
2	不満足である	111	43.0%
	全体	258	100%

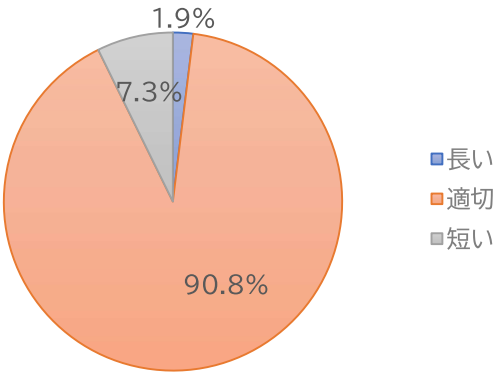


○「不満足である」と回答した方の主な理由

- 体育館などの屋内施設に空調、冷暖房設備がない。
- 器具やトレーニングマシンが古い。
- ウォーキングマシンなどの基本器具が不足している。
- テニスコート人口芝の補修部分に段差があり危険である。
- 室内プールがない気軽に行けるスポーツジムがなく近隣市町（出雲市や浜田市）へ行く必要がある。
- グラウンドや運動公園などの草刈りがされていない、追いついていない。
- 修繕、改修工事がされていない。または、長期化する。

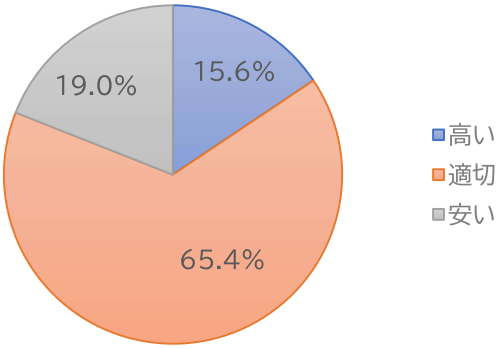
②利用時間

No	区分	件数	割合
1	長い	4	1.9%
2	適切	187	90.8%
3	短い	15	7.3%
	全体	206	100%



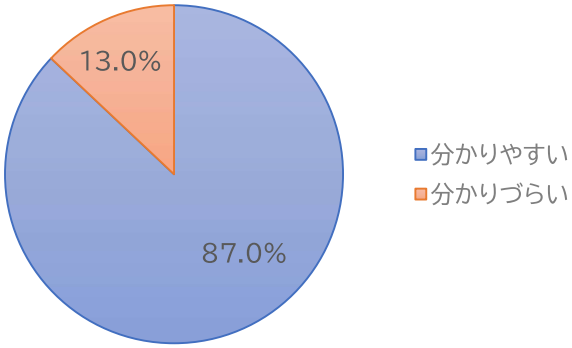
③利用料金

No	区分	件数	割合
1	高い	32	15.6%
2	適切	134	65.4%
3	安い	39	19.0%
	全体	399	100%



④利用方法

No	区分	件数	割合
1	分かりやすい	208	87.0%
2	分かりづらい	31	13.0%
	全体	239	100%

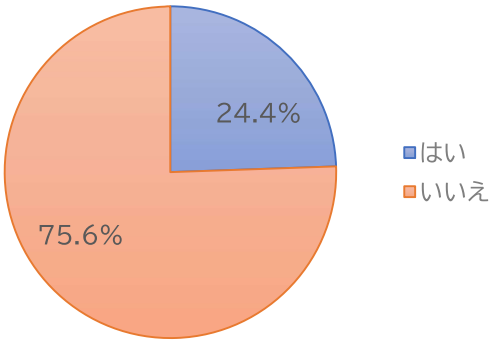


○「分かりづらい」と回答した方の主な理由

・ネット予約ができない。
・予約状況や空き情報が公開されていないため実際に電話や現地で確認しないと分からない。
・施設ごとに管理部署が異なり、申請先や管理窓口が分からない。
・利用料金、時間、条件などの表記が分かりにくい。
・情報がホームページに掲載されていない。また、掲載が分かりにくい。
・休日や事前予約のないときの対応はどうするのかが不明である。

（4）市内で実施しているスポーツイベントや教室に参加したことがあるか。

No	区分	件数	割合
1	はい	98	24.4%
2	いいえ	303	75.6%
	全体	401	100%



※(4)で「はい」を回答された方より調査

①具体的に参加された内容（主な回答）

○ 定期的な教室・レッスン類

・陸上教室　・体操教室　・水泳教室　・サッカー教室、フットサル　・テニス教室　・卓球教室
・バドミントン教室　・バスケットボール教室　・キッズ遊び塾

○ フィットネス系・健康づくり教室（イベント）

・ヨガ、ピラティス、エアロビ、ズンバ、エアロビ教室　・体力測定会

○ 体験型イベント

・スポーツ体験フェスティバル　・スポレク広場　・ボールゲームフェスタ　・モルック体験会
・ボッチャ教室　弓道教室

○ 大会・競技会・地域イベント

・三瓶高原クロスカントリー大会　・地元のグランドゴルフ大会　・健康体力づくり市民大会
・ソフトバレーボール大会　・フットサル、ファミリーフットサル大会

②スポーツイベントや教室の情報の取得方法（複数回答、上位５項目）

No	取得方法	件数	割合
1	大田市の広報誌・ホームページ	54	24.7%
2	チラシ・ポスター	51	23.3%
3	知人・友人からの口コミ	41	18.7%
4	インターネット検索	23	10.5%
5	SNS（Instagram、Ｘなど）	18	8.2%

※⑷で「いいえ」を回答された方より調査

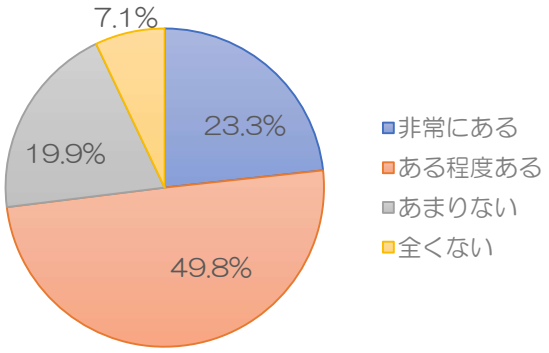
①参加されなかった理由（複数回答、上位５項目）

No	取得方法	件数	割合
1	忙しい（時間がない）から	153	33.6%
2	情報が入ってこないから	110	24.2%
2	興味がないから	110	24.2%
4	近くで開催されないから	37	8.1%
5	費用がかかるから	27	5.9%

4. スポーツ振興について

（1）スポーツ観戦に興味があるか

No	区分	件数	割合
1	非常にある	95	23.3%
2	ある程度ある	203	49.8%
3	あまりない	81	19.9%
4	全くない	29	7.1%
	全体	408	100%



（2）スポーツ観戦方法（複数回答）

No	観戦方法	件数	割合
1	テレビ中継で観る	307	45.4%
2	現地観戦	152	22.5%
3	インターネット配信で観る	141	20.8%
4	ラジオ・音声メディアを聴く	22	3.2%
	観戦しない	55	8.1%

（3）主にどのようなスポーツを観戦するか（複数回答、上位５項目）

No	種目	件数	割合
1	野球・ソフトボール	212	22.5%
2	バレーボール	157	16.6%
3	サッカー	147	15.6%
4	陸上・マラソン	100	10.6%
5	バスケットボール	83	8.8%

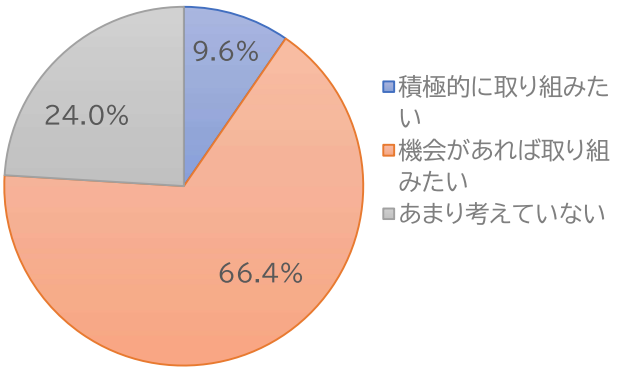
（4）今後、市に力を入れてほしい分野（複数回答、上位５項目）

No	分野	件数	割合
1	子ども向けスポーツ機会の充実	221	23.1%
2	学校開放など地域でのスポーツ環境整備	144	15.0%
3	家族・親子で楽しめるイベントの開催	131	13.7%
4	スポーツに関する情報発信	102	10.7%
5	競技スポーツの強化・支援	99	10.3%

（5）今後スポーツ・運動に取り組みたいか

（現在、スポーツや運動を「全く行っていない」、「あまり行っていない」方のみを抽出）

No	区分	件数	割合
1	積極的に取り組みたい	22	9.6%
2	機会があれば取り組みたい	152	66.4%
3	あまり考えていない	55	24.0%
	全体	229	100%



5. 主なご意見・ご要望

1. 手続き・予約のデジタル化と簡素化

〇体育館等の申請は、メール申請内容の転記で完結させるなど二重記入を解消すること、施設の Web 予約や鍵の非対面受け渡しを導入すること、などの利用手続きを簡素化し費用面の負担も下げて使いやすくすること

2. インクルーシブな参加機会の拡充

〇障がいの有無に関わらず参加できる定期的なスポーツ活動の企画や、ボッチャ教室・インクルーシブ大会の開催

3. 指導者育成とハラスメント防止

〇指導者への研修の充実、スポーツハラスメントの予防・通報体制の整備、違反へのペナルティなど、安心して活動できる環境づくり

〇指導者不足の解消・育成

4. 継続しやすい参加機会（頻度・料金・時間帯）の拡充

〇単発ではなく週 1 回程度の継続教室、低料金で年間を通じて学べる場、競技連盟未加入でも参加できるオープン大会、平日夜など参加しやすい時間帯のイベント開催

〇40～50 代向けの運動機会不足の解消

5. 情報発信・可視化の強化

〇回覧板の代替としての LINE 配信、SNS で活動内容を分かりやすく発信する工夫、ウォーキング等のイベント情報を一元的に見られる仕組み、各スポーツへの参加導線となる広報・PR の強化

6. 少子化・競技人口減への対策と広域連携

〇学校単位では団体競技の人数が揃わないことへの対策、同一競技の地域ネットワーク形成、市単独にこだわらない近隣自治体との協働、種目の選択と集中など、統一的な戦略づくり

〇市として「なぜ運動に親しんでほしいのか」のビジョン明確化

7. 費用・時間の負担軽減と参加支援

〇物価高や家計負担への配慮、子育て中でも参加しやすくなるよう子どもの見守り環境の整備など、費用・時間面の障壁を下げる支援

8. 施設の活用支援および整備

〇子育て世帯の費用負担（参加費や送迎負担）の軽減

〇市内に適当な環境がない種目については、近隣施設を安価で利用できる補助など

〇歩行コースや運動公園、室内プールの整備、照明や安全対策（暑さ対策・野生動物対応など）

9. 子どもの成長と地域活動の両立

〇子どものスポーツと地域行事の両立に配慮すること

10. プログラム面の充実（学校・地域）

〇着衣水泳や救命胴衣の扱いなど、既存の水泳指導とは異なる安全教育としてのプログラムの実施

〇小中学生が気軽に楽しめる企画や運動ゲームなど、プログラム面の工夫

11. 自然・環境活動と健康づくりの融合

〇里山保全や環境保全作業など、自然と触れ合いながら体を動かす健康づくり

大 田 市 体 育 施 設 一 覧 表

No.	指定管理	施設名	所在地	備考
1	○	市民球場	大田町大田口719	公認2種、両翼91.5m、中央115.8m
2	○	市民庭球場	大田町大田口727	コート2面、面積2,860㎡
3	○	市民弓道場	大田町大田口650	
4	○	市民公園プール	大田町大田口716	25m×17m、8コース
5		大田市民第二球場	久手町刺鹿747-4	右翼92m、左翼101m、中央115m
6	○	大田総合体育館	大田町大田口1451	競技場35×45m、柔剣道場、卓球場、トレーニングルーム、ミーティングルーム
7		三瓶高原クロスカントリーコース	三瓶町小屋原1911-1	3km、2km、1kmコース
8		三瓶スポーツ広場	三瓶町池田3354	多目的広場等
	○	北の原キャンプ場	三瓶町多根1121番地1	
9	○	大田運動公園	鳥井町鳥井1281	多目的広場等
10		大田自転車競技場	久手町波根西1755	
11		温泉津総合運動場	温泉津町温泉津イ122-5	
12		温泉津総合体育館	温泉津町温泉津イ207	
13		仁摩多目的広場	仁摩町天河内975	仁摩健康公園内
14		仁摩テニスコート	仁摩町仁万	仁摩健康公園内
15		ﾀｰｹﾞｯﾄﾊﾞｰﾄﾞｺﾞﾙﾌ場	仁摩町仁万	仁摩健康公園内
16		富山地区運動場	富山町山中1661-4	
17		大代地区運動場	大代町大家361-1	
18		宅野地区運動場	仁摩町宅野79	
19		大国地区運動場	仁摩町大国1269	
20		湯里地区運動場	温泉津町湯里1655	
21		温泉津地区運動場	温泉津町小浜イ280-1	
22		井田地区運動場	温泉津町井田口254-1	
23		池田地区運動場	三瓶町池田2246番地	
24		鳥井地区運動場	鳥井町鳥井463番地1	
25		五十猛地区運動場	五十猛町1518番地	
26		富山地区体育館	富山町山中1661-4	
27		大代地区体育館	大代町大家361-1	
28		湯里地区体育館	温泉津町湯里1655	
29		井田地区運動場	温泉津町井田口254-1	
30		池田地区体育館	三瓶町池田2225番地2	
31		鳥井地区体育館	鳥井町鳥井463番地1	
32		五十猛地区体育館	五十猛町1518番地	
33		二中陸上競技場	久手町刺鹿522-1	
34		大屋ふれあいセンター	大屋町大国2903-1	体育館
35		伝統芸能伝承館	仁摩町宅野281	体育館
36		文化振興会館	仁摩町大国1246	体育館
37		農村環境改善センター	仁摩町仁万540-1	体育館
38		櫛島公園キャンプ場	温泉津町温泉津	
39		湯の原公園	温泉津町上村436-2	

関係機関及び民営等体育施設

国立三瓶青少年交流の家体育施設
三瓶ヘルシートレイリングコース（サイクリング、ハイキング）
三瓶山登山コース
トレーニングジム
バッティングセンター
サバイバルゲーム場　等

大田市スポーツ少年団の状況

【単位：人】

年度	種目	野球	バレーボール	剣道	合計
令和3年度	団数	5	4	2	11
	団員	112	47	23	182
	指導者	14	10	4	28
	役員・スタッフ	10	6	8	24
令和4年度	団数	5	5	2	12
	団員	110	56	24	190
	指導者	16	13	4	33
	役員・スタッフ	8	4	10	22
令和5年度	団数	5	4	2	11
	団員	111	57	29	197
	指導者	15	9	4	28
	役員・スタッフ	8	4	12	24
令和6年度	団数	5	4	2	11
	団員	112	55	31	198
	指導者	13	9	3	25
	役員・スタッフ	12	5	13	30
令和7年度	団数	5	4	2	11
	団員	121	49	33	203
	指導者	16	11	3	30
	役員・スタッフ	12	8	8	28

大田市小・中学校等体育館施設開放状況

学校体育館　（単位：日）

学校名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
大田小	295	291	253	254	277
長久小	303	318	303	304	319
五十猛小	87	86	82	92	58
静間小	146	124	189	230	218
鳥井小	16	100	117	100	0
久手小	281	279	300	273	286
朝波小	277	269	286	208	251
川合小	117	141	188	183	208
久屋小	149	155	168	194	185
池田小	33	1			
大森小	0	17	40	55	20
高山小	0	1	4	2	0
温泉津小	120	93	109	0	101
仁摩小	188	202	220	181	172
小学校計	2,012	2,077	2,259	2,076	2,095
大田一中	301	244	262	259	251
大田二中	242	227	219	163	201
北三瓶中	0	0	5	1	0
志学中	158	124	90	63	25
大田三中	0	21	75	66	43
大田西中	182	178	196	247	252
中学校計	883	794	847	799	772
小・中学校計	2,895	2,871	3,106	2,875	2,867

地区体育館

地区名	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
富山	169	116	76	97	73
大代	45	41	49	45	54
井田	18	45	53	61	28
湯里	171	167	30	32	177
池田			138	159	47
地区体育館計	403	369	346	394	379

大田市体育施設利用状況

総合体育館（個人利用）		R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
		利用人数	利用人数	利用人数	利用人数	利用人数
競技場	一般	669	496	143	188	143
	児童学生	553	289	147	288	147
卓球場	一般	336	176	111	155	111
	児童学生	469	21	152	167	152
柔道場	一般	188	119	28	16	28
	児童学生	572	304	5	27	5
剣道場	一般	84	261	196	404	196
	児童学生	24	24	9	21	9
トレーニング場	一般	6,249	5,853	6,580	6,230	6,580
	児童学生	472	217	889	446	889
合計		9,616	7,760	8,260	7,942	8,260

総合体育館（団体利用）		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
競技場	一般	251	3,809	232	5,539	283	6,502	269	7,158	283	6,502
	児童学生	370	9,703	356	9,839	673	12,912	642	11,677	673	12,912
卓球場	一般	0	0	8	84	11	60	10	60	11	60
	児童学生	170	1,141	215	1,393	96	486	85	512	96	486
柔道場	一般	2	26	20	100	102	716	83	747	102	716
	児童学生	49	1,018	54	874	69	1,085	86	1,154	69	1,085
剣道場	一般	45	414	25	212	50	427	17	313	50	427
	児童学生	22	455	50	501	45	659	46	749	45	659
トレーニング場	一般	206	1,730	238	1,901	12	186	1	12	12	186
	児童学生	0	0	0	0	3	14	1	1	3	14
合計		1,115	18,296	1,198	20,443	1,344	23,047	1,240	22,383	1,344	23,047

市民球場		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
球場	一般	26	1,532	23	1,244	40	1,676	38	1,452	34	1,439
	児童学生	166	6,523	170	6,148	143	4,812	150	6,005	144	5,531
合計		192	8,055	193	7,392	183	6,488	188	7,457	178	6,970

第二球場		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
球場	一般	6	340	0	0	6	235	4	280	5	209
	児童学生	208	6,150	240	8,533	243	7,531	219	7,446	233	7,531
合計		214	6,490	240	8,533	249	7,766	223	7,726	238	7,740

大田運動公園		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
野球広場	一般	37	283	30	304						
	児童学生	1	4	4	62						
多目的広場	一般	48	3,388	47	3,310	39	3,302	28	2,024	24	2,032
	児童学生	20	1,761	34	2,882	31	1,998	34	2,156	32	2,408
合計		106	5,436	115	6,558	70	5,300	62	4,180	56	4,440

市民庭球場		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
	一般	808	5,045	707	4,453	699	4,688	680	4,492	686	4,875
	児童学生	544	10,962	557	10,387	592	7,587	679	7,835	831	9,654
合計		1,352	16,007	1,264	14,840	1,291	12,275	1,359	12,327	1,517	14,529

久手テニスコート（久手小横）		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
	一般	2	8	1	2						
	児童学生	22	104	10	38						
合計		24	112	11	40						

弓道場		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
	一般	5	79	11	171	4	130	5	125	3	115
	児童学生	163	5,938	181	4,457	180	4,023	152	4,716	156	3,675
合計		168	6,017	192	4,628	184	4,153	157	4,841	159	3,790

市民プール		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	1	100
	児童学生	16	766	13	695	18	1,131	9	480	14	586
合計		16	766	13	695	18	1,131	9	480	15	686

自転車競技場		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
走路	一般	83	432	102	591	54	511	109	448	129	504
	児童学生	87	468	92	528	139	834	92	779	124	965
広場	一般	154	3,383	156	3,261	152	3,288	133	2,929	149	3,251
	児童学生	11	960	6	290	1	70	0	0	0	0
合計		335	5,243	356	4,670	346	4,703	334	4,156	402	4,720

大田市伝統芸能伝承館		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
体育館		139	1,347	178	1,685	164	2,207	171	2,546	249	2,328
合計											

大田市文化振興会館		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
体育館		334	4,458	324	3,972	364	2,995	371	2,681	379	2,503
合計											

仁摩健康公園		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
多目的広場	一般			54	1,331	37	1,471	27	833	32	977
	児童学生			15	379	17	550	17	645	34	2,150
テニスコート	一般			119	637	139	741	124	741	87	593
	児童学生			157	961	112	720	253	1,756	401	2,671
合計		0	0	345	3,308	305	3,482	421	3,975	554	6,391

温泉津総合体育館		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
体育館	一般	30	1,790	35	3,671	45	2,749	9	4,714	5	340
	児童学生	118	5,326	162	5,340	146	5,765	230	5,847	24	1,295
合計		148	7,116	197	9,011	191	8,514	239	10,561	29	1,635

温泉津総合運動場		R3年度		R4年度		R5年度		R6年度		R7年度	
		利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
運動場	一般	4	581	8	2,508	7	704	6	2,350	0	0
	児童学生	1	50	0	0	11	1,850	5	1,050	1	150
合計		5	631	8	2,508	18	2,554	11	3,400	1	150

大田市スポーツ推進審議会委員名簿

任　期：令和8年2月1日から（2年間）

No	氏　　名	役　職　名	備 考
1	安 田 隆 司	大田市スポーツ協会　理事長	委員長
2	山 﨑 朋 子	市スポーツ推進委員協議会 副会長	副委員長
3	宇 谷 留 美	スペシャルオリンピックス 日本・島根　大田地区委員	副委員長
4	田 村　　明	大田総合体育館　館長 （市スポーツ協会　事務局長）	
5	神 在 ひろみ	ダンス指導者	
6	森 田 由 香	体育施設利用者	
7	足 立 将 太	島根県高等学校体育連盟（邇摩高校体育教諭）	
8	久保田　　勧	大田市中学校体育連盟 会長（志学中学校長）	
9	三 浦　　伝	大田市小学校体育連盟 会長（仁摩小学校長）	

第3期大田市スポーツ推進計画

発行：島根県大田市教育委員会
〒694-0064 島根県大田市大田町大田口 1111 番地
電話：0854-83-8125　FAX:0854-84-9156